

先輩の就活成功レポート



SUCCESS STORY INTERVIEW **01**

保険会社 内定
法政経学部 法政経学科
中山 幸則 さん
Yukinori Nakayama

志望業界
公社団体、IT企業、金融機関のIT部門

- インターンシップエントリー社数・・・ 60社
- インターンシップ参加社数・・・・・・ 40社
- 説明会参加社数・・・・・・・・・・・・ 70社
- 本選考エントリー社数・・・・・・・・・・ 20社
- 本選考面接社数・・・・・・・・・・・・ 13社
- OB・OG 訪問数・・・・・・・・・・・・ 0人



私のお役立ち就活アイテム

LINEのキーボード機能をパソコンとも連携させ、ネットで調べた企業の情報や説明会で知った情報を、面接前に見返すようにしていました。

面接練習を重ねたことで自信を持って振る舞うことができ 就活スランプを乗り越えた

将来性のあるIT分野で就活を進めていった

3年生の春から本格的に就活を開始し、自己分析の結果、将来性や安定性を重視して、業界や企業を選ぶことにしました。政府系金融機関やガス・エネルギー会社なども検討しましたが、最終的には長期インターンシップにも参加し、しっかりと業界・職種研究ができていたIT業界・企業のIT部門を受けることに決めました。

就活中に役立ったのは、逆オファーサイトです。自己PRなどを公開して企業からの反応をもとに、ESのブラッシュアップができただけでなく、オファーがあった企業からの内々定

にもつながりました。

面接官の質問の意図を掴み、自分の考えを適切に伝えることに注力

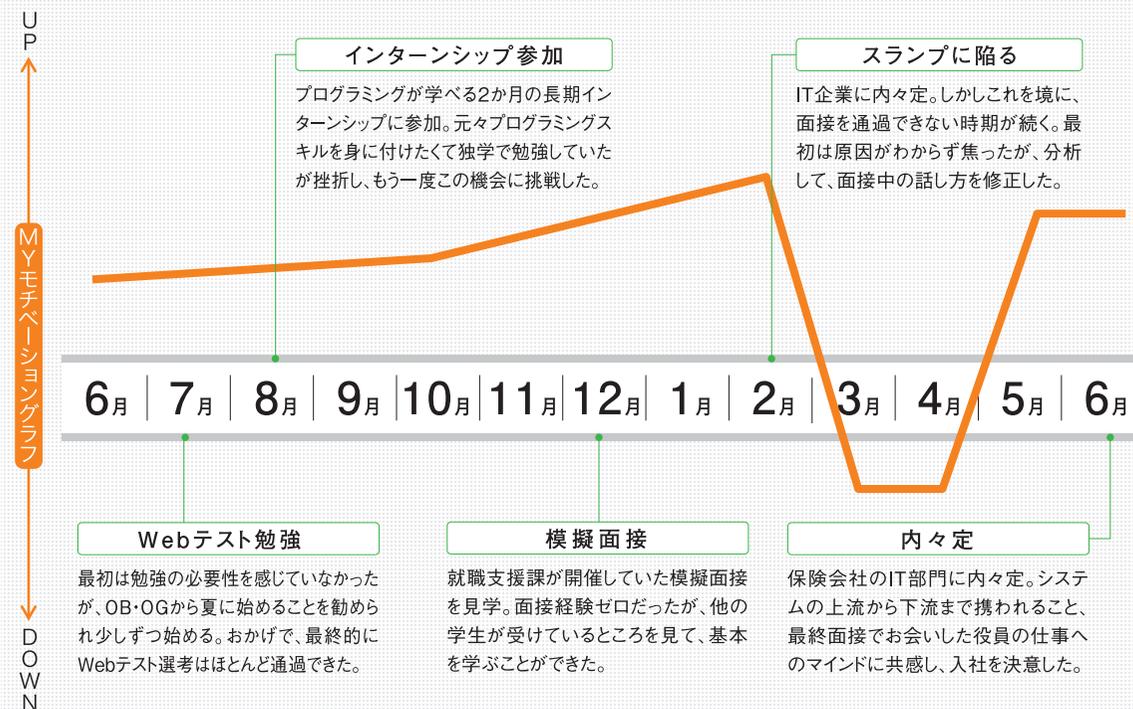
面接では、用意してきた文章をそのまま話さないように意識していました。その分、常に集中力を切らさず、質問をよく聞いて、それに適切に対応する回答にすること、その上で、即座に自分の考えを話せるように努めました。

3年生の2月にはIT企業から内々定をいただくことができました。しかしその後は、一次面接を通過できないスランプが続きました。自分でも原因がわからず不安になりましたが、2月以前と比べて何が変わってしまったのか

分析し、自信のなさそうな話し方になってしまっていることに気がきました。そのため、大きな声でハキハキと話すように改良して、その後の選考に臨みました。

内定先は、開発範囲に魅力を感じたこと、最終面接で役員の方がお話しされていた、「ただシステムをつくるのではなく、保険加入者のことまで考えることが大切」という言葉に共感したことが入社を決め手になりました。保険会社のIT部門であれば、金融とIT、両方の知識が身に付けられることも理由の一つです。入社後は技術を磨き、お客様の隠れたニーズにも気付ける社員として活躍したいです。

私の就活ヒストリー



インターンシップ参加
プログラミングが学べる2か月の長期インターンシップに参加。元々プログラミングスキルを身に付けたくて独学で勉強していたが挫折し、もう一度この機会に挑戦した。

スランプに陥る
IT企業に内々定。しかしこれを境に、面接を通過できない時期が続く。最初は原因がわからず焦ったが、分析して、面接中の話し方を修正した。

Webテスト勉強
最初は勉強の必要性を感じていなかったが、OB・OGから夏に始めることを勧められ少しずつ始める。おかげで、最終的にWebテスト選考はほとんど通過できた。

模擬面接
就職支援課が開催していた模擬面接を見学。面接経験ゼロだったが、他の学生が受けているところを見て、基本を学ぶことができた。

内々定
保険会社のIT部門に内々定。システムの上流から下流まで携われること、最終面接でお会いした役員の仕事へのマインドに共感し、入社を決意した。

ここが効いた！私のエントリーシート

3年生の秋冬インターンシップに向けて、9～10月に内容を固めていきました。就活対策を扱うYouTubeの動画を参考に、結論を文章の最初に置くことを意識しました。ソロプレイヤー的な性格のため、IT分野で求められるチームプレーについて記述するのは難しかったですが、インターンシップのときにチームメンバーとどう接したか、どう貢献したかを書きました。

就活中の疑問や不安を解消するために、先輩やOB・OGに相談し、具体的なアドバイスをもらいました。また、自己PRや志望動機についても、先輩の経験談を参考に、自分らしい文章を書きました。

POINT IT分野で求められるチームワークスキルを伝えた

オンラインプログラミング学習インターンで、チームのメンバー皆で事前に立てた目標を達成することが出来ました。インターンには、一度独学でプログラミングの勉強を挫折したものの、再び挑戦したいと考え参加しました。内容は、チームのメンバーで助け合いながら、各々が参加者全員に共通のプログラミングに関するミッションに取り組みむというもので、私のチームは皆があるミッションまでクリアすることを目標に設定。そのため、私は二つのことを意識しました。一つは、分からない所を限界まで考えた後の質問方法を工夫することで、ミッションを手堅く進めていくことです。具体的には、質問をする際、ただ分からないと伝えるのではなく、それまでの試行錯誤や自分の考えを加えることで、相手が回答し易く、自身も的確な回答が得られるようにしました。もう一つは、メンバーの質問への回答方法を工夫しました。具体的には、質問に対しは、質問を聞き、理解が浅いと感じたら図で回答する等、相手に合わせることを意識しました。このような形でチームに貢献し、最終的に皆が目標を達成することが出来ました。

これで成功！私の必勝自己PR

計画を立て地道に努力を継続する力



自宅で筋トレを3年ほど継続しているという話を元に、計画力をはじめ、実行力や改善力という強みや、それにより自信と自立心が生まれたことをアピールしました。

先輩たちへのメッセージ

何かに打ち込む経験が強みになり就活の不安解消になる

就活は誰もが不安になるもの。2年生の時には、不安からキャリアアドバイザーに何をしたらいいのかが質問しましたし、就活中も不安から常に動くようにしていました。しかし、一番の就活対策は学生生活の充実です。何かに打ち込む経験が自分の強みになり、不安を取り除いてくれます。

先輩の就活成功レポート

SUCCESS STORY INTERVIEW **02**



電気計測器メーカー 内定
 大学院 融合理工学府 創成工学専攻
大川 日向子 さん
 Hinako Okawa

志望業界
製造業

- インターンシップエントリー社数・・・ 19社
- インターンシップ参加社数…………… 5社
- 説明会参加社数…………… 10社
- 本選考エントリー社数…………… 20社
- 本選考面接社数…………… 6社
- OB・OG 訪問数…………… 0人



私のお役立ち
 就活アイテム

ほとんどがオンライン面接だったため、ポートフォリオは製本したものを面接前に郵送し、企業側で見てもらいながら説明しました。

作品の単なる紹介ではなく 過程や意図を具体的に記述したポートフォリオで成功

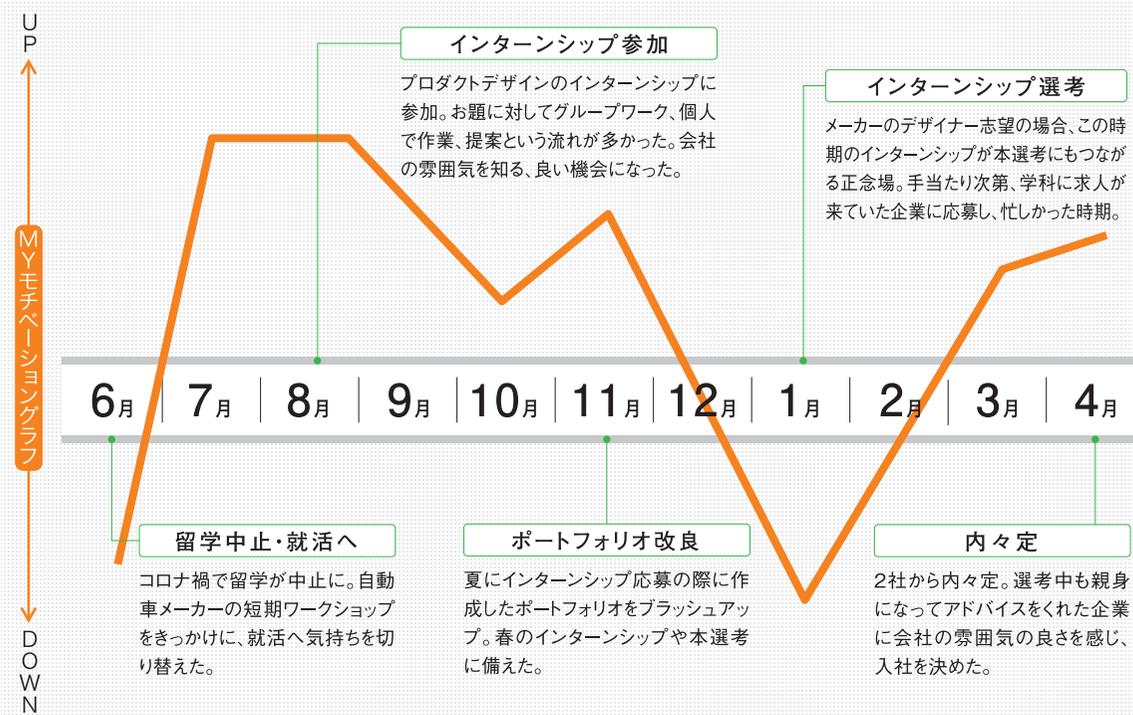
将来どんな製品をデザインしたいかこれまでの経験をもとに考えた
 プロダクトデザインを専攻していたこと、5歳から続いていたダンス団体での経験から、「身体をつかって機能をコントロールできる」ような製品の開発に携わりたいと考えるようになりました。そこで、それができるイメージのあった楽器や自動車メーカーを中心に就活をスタートしました。
 インターンシップでは学科に募集が来ていた約20社に応募しましたが、選考に落ちてしまうことも多く、焦った時期がありました。最終的には希望の企業の内定を得ることができましたが、デザイン事務所や地域の工房

など、メーカー以外の選択肢もあったことを途中で知り、幅広く検討すれば可能性はさらに広がったかもしれず、そこが反省点です。
 デザイン部門の選考では、これまで制作・提案した作品を示すポートフォリオの提出が求められます。ただの紹介に終わらず、どう考え、どのような試行錯誤を重ねて作品を完成させたのか、具体的に記述するように心がけました。その上でブラッシュアップを重ね、本選考までに完成度を高めていきました。

キャリアアドバイザーによる
模擬面接で自信を付けられた
 第一志望企業との最終面接前には、就職

支援課のキャリアアドバイザー面談を利用し、模擬面接では受け答えの内容や話し方をチェックしていただきました。それを受けてしっかりと対策をしたおかげで自信が付き、本番では臆することなく面接に臨むことができました。
 最終的には、扱っている製品、デザイン部門の理念、会社の雰囲気という3点がバランス良く自分に合っていると感じた、電気計測器メーカーに入社を決めました。将来は、ユーザーの直感的な操作感を重視し、そこから新しく造形を生み出すことができるデザイナーになることが当面の目標です。

私の就活ヒストリー



ここが効いた！私のエントリーシート

最初のインターンシップに応募した時点で、自分がどういったことをやりたいかしっかりと自己分析をし、大体的内容は固めました。内定先のESでは、自己PRで海外の大学と合同で行ったデザイン提案ワークショップについて、ガクチカはダンス団体における多様な人々との作品創作について記述しました。のちに面接では、ダンス団体の話が印象的だったとフィードバックをいただきました。



POINT インターンシップ参加前に内容を固めておいた

私の長所は、チームでひとつの物を作りあげること、その企画・提案力です。大学では、海外の他大学と連携して2週間から1ヶ月の中でデザイン提案を行うワークショップが開かれています。私もドイツやイタリア、韓国、アメリカなどの大学と合同で計4回のワークショップに参加する機会をいただきました。イタリアの大学と2020年2月に合同で行ったワークショップでは、豊田市の地場産業を活性化することを目的に、現地の企業の見学や、イタリアの工房との比較を通して、事業者同士がマッチングできるwebサービスを提案しました。現場調査から課題を見つけ、国や大学の異なるグループメンバーと提案を進める中で、アイデアを競い合ったり、次に取るべき行動、さらには発表前後の話し合い、チームで提案を作り上げる上での大きな経験となりました。

学生時代に最も打ち込んだこと
 学生時代に打ち込んだことは、ダンスグループの企画・制作です。私は5歳の頃から大学4年生まで、「NPO法人みんなのダンスフィールド」というダンスの団体に参加していました。この団体には、学生の私や、乳児から高齢者まで、年齢・性別・障害にかかわらず様々なメンバーが集まります。そこで、細かい振り付けや反復練習はせずに即興で作品をつくるという活動を行っていました。自分とは体格も、考え方も全く異なるメンバーに対して、小学生の頃は戸惑いや緊張もありました。それでも、作品をつくるうちに、譲りを通して、徐々に相手との関係性を見出していっていったと感じています。さらに、私が大学生になってからの4年間は、作品の制作だけでなく団体の運営として、舞台公演や小学校でのワークショップの企画・制作にも関わることが多くなりました。



これで成功！私の必勝自己PR

他人と自分の差異を認め、
 相手との関係性を築く力



年齢・性別・障がいにかかわらずさまざまな人が集まるダンス団体で、作品の創作を通して、身体や思考の違いを受け入れて、関係性を築いた経験をアピールしました。

先輩たちへのメッセージ

自分が何を大切にしているか
 それを常に意識しよう

「自分が今、何を大切にしているか」ということを学生生活を送る上で普段から意識しておくことが大切だと思います。そうすることで、就活でも選考で問われるようなこれまで活動してきた内容や、自分の価値観、将来なりたい自分の姿までスムーズに考えを広げられるようになると思います。